



島田市長 染谷絹代

# “男女共同参画宣言都市” 島田市民の皆さんへ

市民の皆様方がいきいきと心豊かに暮らすためには、仕事・家庭・地域すべての場所において、男女共同参画社会の実現が不可欠です。今まで私は、市民という立場から男女共同参画行動計画や条例の策定等に熱く関わらせていただきましたが、今回は行政という立場からさらに推進していけることに喜びを感じています。島田市の魅力あるまちづくりのために、一人ひとりの笑顔が輝くまちづくりのために、市民の皆さんと強力でタッグを組み、さらにパワーアップして取り組んでまいりたいと考えています。

## My Favorite Book



置かれた場所  
で咲きなさい

著者\*渡辺和子(幻冬舎)

衝撃的だったのは、筆者が9歳の1936年2月26日のクーデターで、自宅の居室において、目前で父を失ったこと。「2.26事件」の生き証人である事もさることながら、『時間の使い方は、いのちの使い方』『子供は親の言う通りにはならないが、するとおりになる』など項目ごとに心を洗われるような言葉や、温かい助言が添えられている。どんな場所でも、そこで自分らしく一生懸命生きていく事の大切さを教えてくれる、おススメの一冊。

## 男女共同参画用語

(内閣府男女共同参画局サイト用語集より)

### 《ポジティブアクション》

様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくもの。

例えば、「管理職は男性が大半を占めている」など、男女社員の間で生じている差を解消しようと個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組みのことです。



## 編集後記

90歳の義父と同居しています。年に1回くらい入院する以外はとても元気で、今年も義父の掘ってくれたタケノコや蕎麦を煮て、季節の味を楽しみました。ナスやキュウリも順調に育ちおいしくいただいています。今朝も自分の部屋と玄関、台所に掃除機をかけ、風呂洗いを済ませた義父。「行ってくるねえ〜」を言いながら出勤する私。これってどう見ても私は介護する側ではなく、される側？ そうそう「お祖父さん、そろそろ、枝豆が採れる頃だよねえ!」



編集：島田市男女共同参画啓発推進員 / 小澤康恵・杉本章子・園部真由美・高杉陽子・蛭田ひとみ  
事務局：島田市市民安心課 ☎：36-7121 FAX：35-6000 E-mail：anshin@city.shimada.shizuoka.jp



島田市男女共同参画啓発学習紙

# パレット 24号

メニュー

- P.1 宣言事業所紹介 (株)紀文食品静岡工場
- P.2~3 いつだって、自分らしく...
- P.4 染谷市長メッセージほか



2013年7月15日発行

社員に  
やさしく

宣言事業所紹介

## 子育てしながら仕事ができる!!

株式会社 紀文食品 静岡工場 (島田市大柳)

「女性は、きめ細かい気遣いができるし、場の雰囲気もよくしてくれます。女性の力を頼らなければ、これからは生き残れません。人材育成をしてきたのに、途中で退職なんてもったいない。皆さん長く働いてますよ。会社は、社員に優しくなければ…」と高橋工場長。

育児休業中の社員とは、1か月に1回程度の情報交換(社内報の送付、給与や人事異動の情報発信など)を実施。また、復職後は、子どもが3歳になるまで、負担の少ない部署に異動して6時間の育児短時間勤務ができます。



たかはしのぼる 高橋昇 工場長

### 一育休中のみなさん3名との情報交換会一

業務管理担当者 池田さん  
高橋工場長  
復職者 田中さん  
林さん  
原川さん  
石川さん

- 「仕事が好きだし、続けていきたい」
- 「社会に貢献したい」
- 「子どもを産んでも仕事ができる!」
- 「育児短時間勤務は2時間短いですがすごく違う!子どもの保育園の送迎も余裕がある」
- 「育児休業が、自然に取得できる雰囲気」
- 「保育園がなかなか見つからないと聞くので、不安…」

株紀文食品は「ワーク・ライフ・バランスについて知ろう!」「育児休業や介護休業を取得しやすい環境を」と、男女共同参画社会づくり宣言をしています。

### ● 7月30日は、男女共同参画の日です。

明治9年7月30日、浜松県公選民会の代議人選挙において現在の島田市横岡・島などで日本で女性が初めて投票した歴史を踏まえて定められています。



# いつだって、自分らしく…

## —介護を伴うライフプラン—

少子高齢化の状況において、私達だれもが介護したり、介護される側となる可能性があります。そんな時、あなたは仕事や家族、子育て・生活全体をどのように組み立てますか？今回は、現在それぞれの形で介護に関わっている3人にお話を伺ってみました。



### それぞれどんな介護をされていますか？

**鈴木** 実母91歳。足かけ4年になるかな。足腰よかったんだけど、最近弱くなって、デイサービスに週3日お世話になっている。私も妻や子ども達、弟・妹に助けってもらいながら、介護を続けてきた。妻が食事を作ってくれて、僕は運び役。始末をしたりね、母親がデイに行っている最中に洗濯したり、布団干したり。やり始めた時に自分がそこに埋没したらだめだと思った。介護のつといで勉強したり、他の人たちの話を聞いたりしながら、自分の心の納めどころを考えている。

**瀧** 101歳の義母の在宅介護を7年経て、現在は老人保健施設のお世話になっている。最初は、「なぜ私が？」という思いもあった。でも、地域の中で色々工夫を加えながら高齢者介護をしている先輩達との交流や、実際の介護している姿に学ばせてもらった。

**伏見** 私の祖母は現在85歳の認知症です。母と私と一緒に介護しています。祖母は6年前に認知性を発症し、現在は月の半分をショートステイ、プラス月に7日ほどデイサービスへ行っています。祖母は足腰が元気で食欲旺盛ですが、夜中何度も起きるし、行動力があるので、いざとなったら窓を開けて出ていきます。それで、玄関には3つくらい鍵をかけ、用事のある時はたとえ1時間でも私の家に預けてもらい、1人にさせないようにしています。



介護のつといで学習や他の人の話を伺い自分の心の納めどころをどうしたら良いか？考え中。介護を始め出したばかりの方に「あなた大変だね」と声をかけられる経験者になりたい。

PROFILE **鈴木康允さん (69歳)**  
島田市金谷富士見町在住  
91歳実母を家族で介護中。  
在宅介護支援の在り方を学習中。



### 気付いたこと、工夫したことは？

**鈴木** 最近はインスタント食品が手に入りやすいので、男にとっては介護は便利だと気付いた。心にとめておく。また、私の娘がちょっとしたことで、ばあさんに買い物をしたり、世話をしてくれる。2代3代にわたり、巻き込んでいくことが介護する者には助けとなる。さらに、相手が何を聞いているか、それを受け止めてあげる心の広さみたいなものが必要となってくると気付いた。

**瀧** まず夫や娘を巻き込むこと。役所への書類申請・提出など、夫の得意分野から始めると入り込みやすい。自分も現在実母の介護中なので、その時は夫に義母の洗濯を届けてもらうとかの役割分担もした。妻の私より、近所の親父さんのアドバイスの方が役に立つ時もある。また、いろんな介護グッズを試したり、ケアマネジャーとの情報交換を密にすることも大切だと思う。時には介護休暇をもらい1週間旅行に出かけて、自分を常にいい状態に保つことを心掛けた。

**伏見** 私はガーデニングが趣味で花や野菜を育てたり色々しています。仕事人間だった母は今は介護だけです。何か外に出る機会があればいいんだけど、私もまだ小さい子どもがいるのでなかなか。以前、介護食料理教室に参加して、こういう機会があるといいなって。すごく楽しかったです。みんなと話して。



私の涙も笑顔も見ている娘を介護に巻き込むということが、将来生きていくためのノウハウの継承で、ひとつの学習ではないかしら？

PROFILE **瀧 智子さん (67歳)**  
島田市湯日在住  
湯日地区の高齢者ふれあい事業「しろやまサロン」のスタッフとしても活躍中。  
自然と花木を愛でながら、現在夫、犬、猫と暮らす。



### これから介護をする人へのメッセージ

**鈴木** 新しいものの中に古いものを大事にしていく土壌を育てることが必要。島田にはそういうよさがまだ残っている。肩肘はらないで、やるのが介護。母が自然に生活していく中で、介護は伴走者っていうことだろうな。まわりに感謝しながら、同じ毎日を生きていく上で、普通に過ごすことが介護の極意っていうか。そして、地域力で応援していくことが出来ればいいのか。

**瀧** 私は、義母の送迎を待つ間、花の手入れに精を出し庭を花いっぱいにした。この花々で心が癒されたりする。義母のための手すりを作ったけど、実は庭の垣根に見えるよう趣向を凝らしたり..。要は「介護しながらどこに折り合いをつけて楽しさをうみだすか」という事だと思う。地域の中にもヒントはいっぱいあるので、大勢の人を巻き込み、心を開いて自然体で臨むことをお勧めします。

**伏見** 男性の方は親の認知症への入り口に気づきにくいと思います。特に母親の老化に気づかない。いきなり「認知症ですよ」となる訳ではないので、ご近所や民生委員さんのアドバイスを聞き、介護認定を受けるなどして、自分の親の状態や現実を知ってもらいたいと思います。薬もひどくなってから飲みはじめるのでは遅いんで。認知症人口が増えるにつれて、理解を高めるのも大切ですね。

座談会に参加できてホント良かったです。介護は辛いことも多く大変だけど、考え方・気の持ち様でも違うんだなあ。

PROFILE **伏見ふみのさん (29歳)**  
島田市中溝町在住。  
結婚後実家近くに暮らし、実母と共に祖母の介護中。2児の母。



### After talk 座談会を振り返って…感じたこと

**鈴木** 介護は大変だけど、他の人には分からないから、普段の生活の一部として考えていく。周りからサポートしていかなければね。

**瀧** 今日は年代層や立場の違う人達の話がたくさん聞けて、とてもよかったです。



**伏見** 様々な事情・環境の中で、みんながみんな介護を楽しむことは出来ないとは思いますが、少しでも介護される側の体・心の負担が軽減される社会・地域づくりが大切であると感じました。